

外来この一年

外来看護科長 高橋 みさ子

平成19年は小児科、循環器内科で医師の増員、また各科の診療体制にも変更がありました。小児科では夜間・休日に担当医が配置され、小児科の救急外来受診数は平成19年度上半期では昨年と比較して日中は57%夜間では59%の患者数の増加が見られています。市立土別病院の小児科撤退に加え、小児科医師が当直体制をとっているために地方ばかりでなく地元の患者様の受診数も増加していると思われます。

4月以降は救急外来の夜勤体制も遅出勤務を開始し17時から22時まででは3人夜勤の体制としました。休日日勤業務も2人体制から3人体制へと増員をしました。

一般外来では循環器内科の受診数の増加が明らかで、平成19年度上半期では33%の増加が見られます。

受診患者数の増加、病棟再編による入院患者数の増加に伴い、特殊検査室でも全検査数が5%増加しており内訳としては消化器内科担当検査が約100件2%の増、循環器内科担当の血管造影検査が約120件29%増となりました。

外来スタッフは、産休により退職と勤務異動がありました。新たに医療事務担当者3名視能訓練士1名が加わりました。

〈外来化学療法〉

薬剤副作用の減少とともに増加しています。化学療法室が整備され、主として外科と消化器内科で使用されています。其々の外来から担当者を配置し安全で安楽に終了するように努力しています。担当する外来では化学療法についての研修に参加し看護のレベルアップを図ってきました。外来教育委員では化学療法のチェックリストを検討し試行しています。更に安全に化学療法を行うためには今後診療部と化学療法室の使用、状態の変化時の対策についてなど検討する必要があります。

〈継続看護〉

一人一症例を目指して1回目の発表を11月行いました。係長を中心としてケースを検討しまとめていきました。症例発表を刺激として外来看護の質の向上に繋がりたいと考えています。一部の外来では病棟とのカンファレンスを行い外来受診までの情報を収集しています。次回病院機能評価では今以上に求められるものが多く、係長スタッフの協力の下に質の高い外来看護を提供できるように努力したいと思ひます。

*救急外来小児科受診患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
18年日中	222	126	100	159	247	134	129	75	113	106	177	207	1795
19年日中	168	101	203	301	380	171	178	138	184	179	301	496	2800
18年夜間	133	126	120	171	227	145	132	118	115	122	131	167	1707
19年夜間	106	93	160	273	334	214	208	207	210	222	318	318	2663

*科別外来患者数

	18年	19年
循環器内科	10678	13866
消化器内科	33837	32828
整形外科	26351	24485
外科	6203	6013
胸部外科	4035	3944
皮膚科	29884	30021
小児科	26940	27512
産婦人科	17954	16917
耳鼻科	15189	14013
泌尿器科	10884	10377
眼科	24195	24203
脳神経外科	14468	14361
神経精神科	21139	21739
総数	110988	111157